

●「アクセス」とは、情報に近づく道のこと。家庭科の先生方の日々の授業に役立つ資料を、折に触れお届けいたします。

生活の話題

共に生きる社会をどう描くか

荒井 紀子

2009年3月改訂の高校家庭科、新学習指導要領には、家庭基礎、生活デザインに「共生社会と福祉」、家庭総合に「共生社会における家庭や地域」の項目が新たに設けられた。

10年前に改訂された現行学習指導要領では、保育や高齢者の学習項目に初めて「福祉」の用語が入り、家庭科において個人や家族の人間らしい生活「ナショナルミニマム」を社会的に保障する福祉の視点が家庭科に位置づけられた。これら「福祉」に寄り添う形で、今回、新たに加えられた「共生社会」について、その意味するところを考えてみたい。

「共生」（共に生きる）という言葉は、大きく分けて、「自然との共生」「環境との共生」「多文化共生」など、人と事象との関係性を意味するものと、「男女共生社会」「ノーマライゼーション」など、人権や人間同士の関係性を意味するものがある。家庭科は、環境や消費の学習を含み、その意味で前者の共生とも無関係ではないが、「共生社会」の言葉が「人の一生と家族・家庭（及び福祉）」で用いられていることを考えると、「性別や年齢、障害、人種、国籍、階級等の違いを超えて平等、対等にかかわり、ともに助け合う」をイメージするとみることができるだろう。

さらに、これらを土台としながらも、一歩進めて、多様な人間が、それぞれの持てる力を発揮して、智慧を出し合い、混在して生きる「インクルージョン」のイメージも沸いてくる。20世紀後半から21世紀にかけて、世界は国連を中心に人間の価値や人権への共通理解を深め、ともに生きる社会に向けて、多くの宣言を発表し新たな価値や関係性について提言してきた。

家庭科では、これらのことを深く学ぶとともに、実際にそうした社会をどう創っていくのか、これからの生活の担い手となる生徒達に、地域のさまざまな生活や人々の多様なネットワークの形に目を向けさせ、具体的に考えさせたいものだ。ヒントは、身近な人や新聞、TVのニュース、インターネットなど目を凝らせばいくつも見えてくる。

共生の新たなかたちを高校生自身が智慧を絞って考え、それを表現する（できるところから実践する）—このような、生徒に市民としての力をつけさせる学習をどう組織するか、家庭科教師の腕のみせどころだろう。

あらい のりこ

福井大学教育地域科学部教授。福井大学教育地域科学部附属中学校校長。専門は家庭科教育学。開隆堂出版教科書著者。主な著作に「新しい問題解決学習—Plan Do See から批判的リテラシーの学びへ」（教育図書）『生活主体の形成と家庭科教育』『生活主体を育む—未来を拓く家庭科』（ともにドメス出版）などがある。



特集

共に生きる社会と家庭科

CONTENTS

- 生活の話題
共に生きる社会をどう描くか
荒井紀子
..... 1
- 小・中・高校家庭科の学習の系統性
..... 2
- 現行教科書での系統性
..... 6
- 開隆堂の高校家庭科用各種教材 他
..... 8

高等学校の新学習指導要領が告示され、小・中・高校の新学習指導要領が出揃いました。家庭科ではどのような系統性が図られているのか、まとめました。

特に今号のテーマである「共に生きる社会」の内容を細かく掲載しています。

目 標

小学校

<p>目標</p> <p>衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>(1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。</p> <p>(2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。</p> <p>(3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。</p>
--

中学校技術・家庭 家庭分野

<p>技術・家庭</p> <p>目標</p> <p>生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>家庭分野</p> <p>衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p>
--

<p>A 家庭生活と家族</p> <p>(1) 自分の成長と家族</p> <p>ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ</p> <p>(2) 家庭生活と仕事</p> <p>ア 家庭の仕事と分担</p> <p>イ 生活時間の工夫</p> <p>(3) 家族や近隣の人々とかかわり</p> <p>ア 家族との触れ合いや団らん</p> <p>イ 近隣の人々とかかわり</p>

<p>A 家族・家庭と子どもの成長</p> <p>(1) 自分の成長と家族</p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活とかかわり</p> <p>(2) 家庭と家族関係</p> <p>ア 家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とかかわり</p> <p>イ これからの自分と家族、家族関係をよりよくする方法</p> <p>(3) 幼児の生活と家族</p> <p>ア 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割</p> <p>イ 幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義</p> <p>ウ 幼児と触れ合い、かかわり方の工夫</p> <p>エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践</p>

※下線は選択事項。3学年間で1又は2事項を選択

家庭基礎

<p>目標</p> <p>人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>

<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>生涯発達の視点、青年期の課題、男女の協力、家庭を築くことの重要性、自己の意思決定、責任をもった行動</p> <p>イ 子どもの発達と保育</p> <p>乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境、子どもを生き育てることの意義、親や家族及び地域や社会の果たす役割</p> <p>ウ 高齢期の生活</p> <p>高齢期の特徴と生活、高齢社会の現状と課題、家族や地域及び社会の果たす役割</p> <p>エ 共生社会と福祉</p> <p>家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援、家庭や地域及び社会の一員としての自覚、共に支え合って生活することの重要性</p>

家庭総合

<p>人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>

<p>(1) 人の一生と家族・家庭</p> <p>ア 人の一生と青年期の自立</p> <p>生涯発達の視点、各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題、自立や男女の協力と平等、生涯を見通した青年期の生き方</p> <p>イ 家族・家庭と社会</p> <p>家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とかかわり、家族の一員、男女の協力、家庭を築き生活を営むことの重要性</p> <p>(2) 子どもや高齢者とかかわりと福祉</p> <p>ア 子ども発達と保育・福祉</p> <p>子どもの発達と生活、子どもの福祉、親の役割と保育の重要性、地域及び社会の果たす役割、子どもを生き育てることの意義、子どもとかかわることの重要性</p> <p>イ 高齢者の生活と福祉</p> <p>高齢者の心身の特徴、高齢社会の現状及び福祉、高齢者の生活の課題や家族、地域及び社会の果たす役割、高齢者の自立生活を支えるための支援の方法、高齢者とかかわることの重要性</p> <p>ウ 共生社会における家庭や地域</p> <p>家庭と地域とかかわり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの重要性、家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義</p>
--

生活デザイン

<p>人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を体験的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>

<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>イ 子どもの発達と保育</p> <p>ウ 高齢期の生活</p> <p>エ 共生社会と福祉</p> <p>オ 子どもとの触れ合い</p> <p>カ 高齢者とのコミュニケーション</p>
--

※下線は選択事項。適宜項目を選択して履修。

家族・家庭と人の一生にかかわる内容

食生活にかかわる内容

衣生活・住生活にかかわる内容

消費生活と環境にかかわる内容

小学校	中学校技術・家庭 家庭分野
<p>B 日常の食事と調理の基礎</p> <p>(1) 食事の役割</p> <p>ア 食事の役割と日常の食事の大切さ</p> <p>イ 楽しく食事をするための工夫</p> <p>(2) 栄養を考えた食事</p> <p>ア 体に必要な栄養素の種類と働き</p> <p>イ 食品の栄養的特徴と組合せ</p> <p>ウ 1食分の献立</p> <p>(3) 調理の基礎</p> <p>ア 調理への関心と調理計画</p> <p>イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け</p> <p>ウ ゆでたり、いためたりする調理</p> <p>エ 米飯及びみそ汁の調理</p> <p>オ 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、こんろの安全な取扱い</p>	<p>B 食生活と自立</p> <p>(1) 中学生の食生活と栄養</p> <p>ア 食事が果たす役割、健康によい食習慣</p> <p>イ 栄養素の種類と働き、中学生に必要な栄養の特徴</p> <p>(2) 日常食の献立と食品の選び方</p> <p>ア 食品の栄養的特質、中学生の1日に必要な食品の種類と概量</p> <p>イ 中学生の1日分の献立</p> <p>ウ 食品の選択</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア 基礎的な日常食の調理、安全と衛生、食品や調理用具等の適切な管理</p> <p>イ 地域の食材を生かした調理、地域の食文化</p> <p>ウ 食生活についての課題と実践</p>
<p>C 快適な衣服と住まい</p> <p>(1) 衣服の着用と手入れ</p> <p>ア 衣服の動きと快適な着方の工夫</p> <p>イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯</p> <p>(2) 快適な住まい方</p> <p>ア 住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方の工夫</p> <p>イ 季節の変化に合わせた生活の大切さ、快適な住まい方の工夫</p> <p>(3) 生活に役立つ物の製作</p> <p>ア 形などの工夫と製作計画</p> <p>イ 手縫いやミシン縫いによる製作、活用</p> <p>ウ 用具の安全な取扱い</p>	<p>C 衣生活・住生活と自立</p> <p>(1) 衣服の選択と手入れ</p> <p>ア 衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫</p> <p>イ 衣服の計画的な活用や選択</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ</p> <p>(2) 住居の機能と住まい方</p> <p>ア 住居の基本的な機能</p> <p>イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まい方の工夫</p> <p>(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫</p> <p>ア 布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫</p> <p>イ 衣生活又は住生活についての計画と実践</p>
<p>D 身近な消費生活と環境</p> <p>(1) 物や金銭の使い方と買物</p> <p>ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方</p> <p>イ 身近な物の選び方、買い方、適切な購入</p> <p>(2) 環境に配慮した生活の工夫</p> <p>ア 自分の生活と身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫</p>	<p>D 身近な消費生活と環境</p> <p>(1) 家庭生活と消費</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任</p> <p>イ 販売方法の特徴、生活に必要な物資・サービスの選択、購入及び活用</p> <p>(2) 家庭生活と環境</p> <p>ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践</p>

※下線は選択事項。3学年間で1又は2事項を選択

家庭基礎	家庭総合	生活デザイン
<p>(2) 生活の自立及び消費と環境</p> <p>ア 食事と健康</p> <p>健康で安全な生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生</p> <p>生涯を見通した食生活</p>	<p>(4) 生活の科学と環境</p> <p>ア 食生活の科学と文化</p> <p>栄養、食品、調理及び食品衛生</p> <p>食生活の文化</p> <p>安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営む</p>	<p>(3) 食生活の設計と創造</p> <p>ア 家族の健康と食事</p> <p>イ おいしさの科学と調理</p> <p>ウ 食生活と環境</p> <p>エ 食生活のデザインと実践</p>
<p>イ 被服管理と着装</p> <p>被服管理に必要な被服材料、被服構成</p> <p>目的に応じた着装の工夫</p> <p>健康で快適な衣生活</p>	<p>イ 衣生活の科学と文化</p> <p>着装、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理</p> <p>衣生活の文化</p> <p>安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営む</p>	<p>(4) 衣生活の設計と創造</p> <p>ア 装いの科学と表現</p> <p>イ 被服の構成と製作</p> <p>ウ 衣生活の管理と環境</p> <p>エ 衣生活のデザインと実践</p>
<p>ウ 住居と住環境</p> <p>住居の機能、住居と地域社会とのかかわり</p> <p>安全で環境に配慮した住生活</p>	<p>ウ 住生活の科学と文化</p> <p>住居の機能、住空間の計画、住環境</p> <p>住生活の文化</p> <p>安全と環境に配慮し、主体的に住生活を営む</p>	<p>(5) 住生活の設計と創造</p> <p>ア 家族の生活と住居</p> <p>イ 快適さの科学と住空間の設計</p> <p>ウ 住居と住環境</p> <p>エ 住生活のデザインと実践</p>
<p>エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p> <p>消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任、生涯を見通した生活における経済の管理や計画</p>	<p>(3) 生活における経済の計画と消費</p> <p>ア 生活における経済の計画</p> <p>イ 消費行動と意思決定</p> <p>ウ 消費者の権利と責任</p>	<p>(2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立</p> <p>ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p>
<p>オ ライフスタイルと環境</p> <p>生活と環境とのかかわり、持続可能な社会を目指したライフスタイルの工夫</p>	<p>(4) エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立</p> <p>安全で安心な生活と消費、生活文化の伝承・創造、ライフスタイルの工夫</p>	<p>イ ライフスタイルと環境</p>
<p>カ 生涯の生活設計</p> <p>生涯を見通した自己の生活</p>	<p>(5) 生涯の生活設計</p> <p>ア 生活資源とその活用</p> <p>イ ライフスタイルと生活設計</p>	<p>ウ 生涯の生活設計</p>
<p>(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>

※下線は選択事項。適宜項目を選択して履修。

開隆堂の高校家庭科用各種教材

安全・安心な共生社会をめざした 新図解家庭科の実験・観察・実習指導集

日下部信幸/石井克枝/工藤夫美子
他7名 編・共著
■B5判/100頁
■定価2,940円(本体 2,800円)



◎以下も好評発売中

●図解 家庭科の実験・観察・実習指導集
日下部信幸・野田知子ほか4名 監修
■B5判 100頁(内カラー口絵4頁)
■定価 2,800円(本体 2,667円)
●続 図解 家庭科の実験・観察・実習指導集
日下部信幸・下村道子 共著
■B5判 100頁(内カラー口絵4頁)
■定価 2,900円(本体 2,762円)

家庭科ワークシート集

■B4判 80シート
■CD-ROM1枚 Windows版
■ワード・一太郎対応
■定価 6,300円(本体 6,000円)

ビジュアル栄養計算Ⅱ (五訂増補版)

Windows98 Me/NT4.0
2000/XP対応/パソコンソフト
■定価 12,600円
(本体 12,000円)
指導の手引き(B5判 80頁)付
生徒用追加CD-ROM
■定価8,400円(本体 8,000円)



家庭基礎 家庭総合 学習ノート

体様：B5判 別冊解答書付

家庭基礎学習ノート 家庭総合学習ノート

明日の生活を築く
■本文 96ページ ■定価 500円(税込)
明日の生活を築く
■本文 112ページ ■定価 550円(税込)

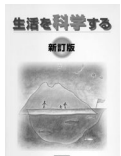
家庭科 ACCESS 資料集

■口絵+見返し 14頁
■本文 168頁
(内食品成分表22頁)
■定価 720円 本体(686円)



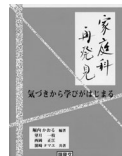
新訂版 生活を科学する

小川正光/加藤祥子/西村敬子/
早瀬和利/山根真理 共著
■A4判
本文 120頁(内カラー32頁)
別冊課題ノート(16頁)付
■定価 1,890円(本体1,800円)



家庭科再発見

堀内かおる 編著
望月一枝・西岡正江・浜崎タマエ
共著
■A5判/152頁
■定価 1,890円(本体1,800円)



食品成分表 (五訂増補)

■B5判/272頁
■定価 730円 本体(695円)



小・中学校用教材も充実しています

新学習指導要領を読み解く よくわかる小学校家庭科

学習指導要領 ビジュアル解説 授業への生かし方

櫻井純子/内野紀子/鳴海多恵子 監修
■B5判/144ページ
■定価 2,415円(本体2,300円)



新学習指導要領を読み解く よくわかる技術・家庭科「家庭分野」

学習指導要領 ビジュアル解説 授業への生かし方

生野晴美/友定啓子/長澤由喜子 監修
■B5判/144ページ
■定価 2,415円(本体2,300円)



これならできる 授業が変わる 評価の実際

—「関心・意欲・態度」を育てる授業—
中村祐治/堀内かおる/岡本由希子/
尾崎誠 監修
■A4判/104ページ
■定価 1,575円(本体1,500円)



新学習指導要領対応 はじめての家庭科指導

櫻井純子/内野紀子/鳴海多恵子 監修
■B5判/112ページ
■定価 2,100円(本体2,000円)



新学習指導要領対応 技術・家庭 新しい題材・指導事例集

技術分野 安東茂樹/竹野英敏 編著
家庭分野 鶴田敦子/大竹美登利 監修
■B5判/各160ページ
■定価 各2,625円(本体2,500円)



基礎・基本が身につく、かんたんにできる 布を使った作品集

櫻井純子 監修 鳴海多恵子 編著
■B5判/64ページ
■定価 1,890円(本体1,800円)



ACCESS

Vol.12-2 (通巻39号)
定価120円(本体114円)
送料80円

平成21年6月10日印刷 平成21年6月15日発行 編集兼発行人 山岸忠雄
印刷所/興隆社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8
発行所/開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
03(5684)6121 [営業]、03(5684)6118 [販売]、03(5684)6116 [編集] / 振替00130-8-75296



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6丁目11
東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-11-1
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町14-4
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 F Y C ビル

札幌北辰ビル ☎ 011(231)0403
秋野町Mビル ☎ 022(782)8511
星ヶ丘プラザ ☎ 052(789)1741
☎ 06(6531)5782
☎ 092(733)0174